

[論文]

本学における「少人数制・習熟度別クラス編成」導入に関する報告

大 輔
嘉 幸
雄一郎
軈 部
岡 田
富

- 〈目 次〉
- I. はじめに
 - II. 本学における「習熟度別クラス編成」導入に関する報告：情報
 - III. 本学における「少人数教育」導入に関する報告：国語
 - IV. 本学における「少人数制・習熟度別クラス編成」導入に関する報告：英語
 - V. おわりに

I. はじめに

平成16年度において、商学部改革検討会議で議論され、同年度商学部教授会で了承された「学生のドロップアウト対策」の一環として、平成18年度より本学の共通必修科目である情報リテラシー、国語、英語において「少人数制・習熟度別クラス編成」が導入される¹⁾。

少人数化の実施、習熟度別クラス編成の導入目的は学生の理解度に応じた講義展開を行うことや少人数によるきめ細かい対応を行うことにあるが、これにより学生の理解を促すだけでなく修学意志を高める事が出来ると考えられる。特に1年生配当の必修科目においてこの目的が達成されることで、1年時終了時点で退学する早期ドロップアウト学生の増加に歯止めを掛けることが期待される。

本稿は平成17年度より1年生の一部クラスを対象として実施された「少人数制・習熟度別クラス編成」導入に関する中間報告、および平成18年度より1年生全体を対象として実施される本運用に関する合同報告である。

II. 本学における「習熟度別クラス編成」導入に関する報告：情報

輔 大 報

1. 試験運用の概要

1-1. 習熟度別情報リテラシー教育の沿革

情報コースではかねてより高等学校における情報処理科目が必修化された学生が入学する平成18年度以降に学生間の情報処理に関する知識・技術に大きな格差が生じる事を予測し、習熟度別クラス編成の必要性およびその導入方法の検討を行ってきた。検討の結果、講義予約システムおよびセッション制を軸とした習熟度別クラス編成の運用案が作成された。

昨年度に設置された本学商学部改革検討会議において学生のドロップアウト対策が本学の短期的に解決すべき緊急課題の一つとして挙げられ、その一環として今年度

より本学の情報リテラシー教育において習熟度別クラス編成が実施される事になった。今年度の実施については事前準備期間の不足等からセッション制や講義予約システムと言った本学独自の特色の部分については一部割愛し、純粹に習熟度別クラス編成の実施効果および次年度以降の本運用を実施すべきかどうかの是非を判断するためのテストケースとしての運用が行われることとなった。

1-2. 各習熟度の設定内容および対象学生

情報リテラシー教育における習熟度別クラス編成では、☆クラス（基礎クラス）、☆☆クラス（通常クラス）、☆☆☆クラス（上級クラス）の3段階で習熟度別クラスを設定している。

これらの習熟度のうち、高等学校でもっとも多く実施されている情報教育である情報Aの授業を受け、標準的な知識およびコンピュータ操作を持つ状態で本学に入学する新入生に対応する習熟度と位置づけられるのが中級クラスにあたる☆☆クラスである。このクラスでは高等学校までに学んだ基礎的な知識や技術を元に、大学で専門教育を学ぶ際に必要となる情報処理技術、特に表計算ソフトの応用的利用法やプレゼンテーションソフトを用いた発表技法等の習得を目的としている。

☆クラスは高等学校において情報科目、特にコンピュータ操作の実技が不得手であった学生、もしくは高等学校において情報科目のうちコンピュータ操作の実技がカリキュラムに含まれていない情報B、情報Cの授業を受講した学生を対象とするものである。このクラスでは大学でのレポート作成等に必要なワープロや表計算ソフトの基本的な利用方法、情報検索の技術や情報倫理などのコンピュータリテラシーや情報リテラシーに関する教育が中心となる。

☆☆☆クラスは商業科、あるいは情報科において普通科よりも高度な情報教育を受けた学生、あるいは独学である程度の情報処理知識・技術を身につけた学生を対象としたものである。このクラスに所属する学生は既にある程度以上の情報処理技術を習得しているため、基礎的な部分に関する講義は極力少なく、実務的なものを含ん

1) 情報リテラシー科目においては平成17年度より習熟度別教育を一部クラスで実施、平成18年度より1年生全てを対象に習熟度別教育を実施予定である。国語科目においては平成17年度より少人数教育を一部クラスで実施、平成18年度より1年生全てを対象に少人数教育を実施予定である。英語科目においては平成17年度より1年次必修科目である「リーディング・ライティング」の少人数・習熟度別教育を一部クラスで実施、平成18年度より1年生全てを対象に少人数・習熟度別教育を実施予定である。

だ実践的・応用的な課題作成を中心に講義展開を行う。

なお、平成18年度以降の習熟度別クラス編成の本運用時には全ての新生が高等学校において情報科目を受講済みであるため、高等学校で学んだ情報科目の区分を含む上記の習熟度設定を学生に対して適用可能であるが、今年度に関しては一部の高等学校では情報科目の授業が実施されていない可能性があるため、学生に対する各習熟度の設定内容および講義目的は必ずしも上記の設定通りでは無く、若干従来の情報リテラシー教育内容に近いものである。

1-3. クラス編成結果

先に述べたとおり、今年度は習熟度別情報リテラシー教育のテストケースとしての運用であるため、1年生全員が対象ではなく一部クラス（1組、2組、3組）を対象に習熟度別クラス編成が実施された。

対象となるクラスの学生に対しては4月12日に実施される初回講義の際にガイダンス及び習熟度別のクラス編成を行う旨、入学式およびプライムセミナー宿泊ガイダンス時に通知を行った。初回講義当日の出席者数は144名であり、これらの学生に対して☆、☆☆、☆☆☆の3段階に習熟度別クラスを設定する事、そしてそれらのクラスのいずれに所属するかは学生自身の意志で決定する事を伝え、その結果下記の通りのクラス編成が行われた。

☆☆☆クラス（担当：後藤） 8名

☆☆クラス（担当：五月女） 33名（+2名）

☆クラス（担当：鞆） 52名

☆クラス（担当：木戸） 51名

なお、同じ☆☆クラスのうち、鞆担当のクラス人数が多いのはガイダンス終了後に所属クラスを決めかねた学生を全て☆☆クラスに収容したためである。

また初回ガイダンスを欠席した2名の学生については個別に聞き取り調査を行い所属クラスを☆☆クラス（担当：五月女）に決定した。

また高大一貫七ヶ年教育のプログラムにより入学以前に情報リテラシー科目の単位を修得し、春セメスターの講義を受講免除された学生については6名が秋セメスターの初回講義に出席した。これらの学生についても個別に聞き取り調査を行い、うち4名が☆クラス、残り2名が☆☆クラス（担当：鞆）に決定した。

2. 試験運用の途中分析

2-1. 学生アンケート結果

今回、習熟度別クラス編成を導入したクラスにおいて学生アンケートを実施し、春セメスターの全履修者数146名のうち106名から回答を得た。各項目の集計結果は以下の通りである。

履修者数 146名

有効回答数 106件

アンケート実施時期 平成17年7月5日、12日（春セメスター最終講義日およびその前週）

Q1. あなたが所属しているクラスはどのクラスですか

	初級	中級	上級
回答	36	62	8

Q2. 所属しているクラスの講義内容はあなたにとって

	初級	中級	上級	割合
簡単すぎる	1	4	0	4.7%
やや簡単	5	9	0	13.2%
丁度良い	26	37	4	63.2%
少し難しい	4	10	4	17.0%
理解できない	0	2	0	1.9%

Q3. 習熟度別でクラス編成することについて、どう思いますか？

	初級	中級	上級	割合
良いと思う	29	50	8	82.1%
悪いと思う	0	0	0	0.0%
どちらでもない	7	12	0	17.9%

Q4. 自分の意志で所属するクラスを選択する方法について、どう思いますか？

	初級	中級	上級	割合
良いと思う	25	48	7	75.5%
悪いと思う	1	4	0	4.7%
どちらでもない	10	10	1	19.8%

Q5. 所属クラスの途中移動制度が導入されるとしたら、利用しますか？

	初級	中級	上級	割合
利用したい	8	16	1	23.6%
利用しない	14	10	3	25.5%
わからない	14	36	4	50.9%

Q 6. 大学入学までに学んだことがあるものは… (複数回答可)

	初級	中級	上級	割合
ワープロ	11	40	8	55.7%
表計算	5	22	6	40.6%
データベース	1	10	2	12.3%
プレゼンテーション	4	14	6	22.6%
インターネット	25	44	8	72.6%
プログラミング	1	11	3	14.2%

Q 7. 大学で学んでみたいと思うものは… (複数回答可)

	初級	中級	上級	割合
ワープロ	13	19	2	32.1%
表計算	17	26	1	41.5%
データベース	12	23	3	35.8%
プレゼンテーション	11	25	2	35.8%
インターネット	11	18	2	29.2%
プログラミング	16	25	6	44.3%

アンケート結果の補足および分析は次の通りである。

Q 1. 所属クラスに関する設題

実際の各クラスの人数は1～3に記載したとおりであるが、アンケートの回答数は図1のようになっている。これはセメスター末の課題提出時期にアンケートを実施したため、課題作成のためアンケートに回答する時間を取れない学生、もしくは逆に既に課題を提出し終わっていたためにアンケート実施時間にはすでに教室から退室していた学生が存在するためである。

Q 2. 授業内容と学生のマッチングに関する設題

講義内容が自分に合っていると感じる学生は全体で63.2%であり、やや簡単、少し難しいと若干マッチングに違和感を感じている学生を合わせると全体の93.4%の学生が概ね自分自身の能力に見合ったクラス選択が行えていると回答している。

簡単すぎる、および難しすぎるというクラス選択を失敗していると思われる学生が約6%存在し、その大半が中級の☆☆クラスに集中しているが、これは今年度の初回以外ダンス時に所属するクラスを選択する際に講義内容等の判断基準となる材料を詳細に提示しなかったため、所属するクラスを決めかねて中級に所属した学生が存在していると考えられる。

Q 3. 習熟度別クラス編成に関する設題

全体の82.1%の学生が習熟度別クラス編成を支持しており、習熟度別クラス編成を支持しない学生は皆無であった。この設題に関しては学生のコメントを記載する欄が設定されていたが、コメントの大半が「同じレベルの学生が集まっているため安心して受講できる」という趣旨のものであった。

Q 4. 所属クラスの選択に関する設題

本学の情報リテラシー教育における習熟度別クラス編成に関しては、学生自身に自分で所属するクラスを決定させる事が特色の一つとしてあげられるが、この点に関しては実際にクラス選択を自身で行った学生の約75%が支持を表明している。約5%の学生が不支持を表明しているが、これらの学生からは「所属するクラスを選択する基準が良く分からなかった」と言うコメントが寄せられていた。各クラスの講義内容および各習熟度の編成基準等はシラバスに記載されているが、来期以降は初回ガイダンス時により詳細な講義内容および各習熟度の特徴説明が必要であると思われる。

Q 5. クラス移動に関する設題

セメスター中、あるいは秋セメスター開始時に所属するクラスを移動する事ができる制度を導入する事に関しては賛成、反対がそれぞれ約1/4、残り1/2がわからないと言う回答であった。

情報コースで当初検討していた案では各セメスターを講義3回を1セッションとして分割し、セッション単位で所属クラスを移動する事が出来る方式の採用が検討されていたが、この学生アンケートの結果をみる限りではセッション単位、あるいはセメスター単位で所属クラスを移動できる制度の導入を行ったところで多数の学生が利用するかどうかは疑問である事が明らかになった。設題2の所属クラスに対するマッチングに関する回答と合わせて考えると、学生の自由意志でクラス移動を行わせるよりも、教員側が講義内容にマッチしない学生のクラス移動を指導するスタイルを採用する方が实际的であると思われる。

Q 6. 大学入学までに学んだ知識・技術に関する設題

今年度の新入学生は高等学校で情報教育を必修授業と

して履修していない学生であるが、それでも55.7%の学生がワープロを、40.6%の学生が表計算を、インターネットに関しては72.6%もの学生が既に学んだ事があると回答している。また集計結果には表示されていないが、大学入学までに全く情報処理関連の教育を受けたことがないと答えた学生は7名(6.6%)であった。

これらの回答は重複回答であるため、一人の学生が全ての項目について学習経験があると回答しているケースも数件あった。

Q 7. 大学で学びたい知識・技術に関する設題

インターネット(29.2%)、ワープロ(32.1%)等の既に学んだ事がある内容に関しては学習希望が少なく、逆に表計算(41.5%)、プログラミング(44.3%)等の内容についての学習希望がやや多い結果となった。これまでの情報リテラシー教育ではワープロ、インターネット等が学習の第一段階として設定される事が多かったが、これらの内容については既に高等学校までに大半の学生が学習を終えている事がQ 6の回答内容と合わせて読みとれる。

2-2. 担当教員からの感想、意見

今年度は試験的運用であるため、学生に対するアンケート以外にも習熟度別の各クラスで講義を実施した教員からも感想および意見の聴取を行った。その結果、習熟度別クラス編成による利点として挙げられたものが「従来の習熟度混在での講義よりも講義運営が容易であった」「従来の講義よりも学生の受講態度が良好である」と言う2点である。

また、習熟度別クラス編成に関する感想としては「同じ習熟度であってもある特定の部分について知っている学生と知らない学生が存在し、また同じ学生でも部分的に知っている部分と知らない部分が存在するため完全に習熟度別で割り切った講義展開が難しい」と言う指摘があった。一例を挙げるとすればワープロの経験がある上級クラスの学生の場合、全体的なワープロ操作に関しては問題が無いがワープロによる作表の経験が無いため、作表を含む課題を提示された場合に課題作成が行えない、と言うケースがこれに該当する。

本来中級～上級に位置するクラスにおいては受講する学生が基礎的な内容については一通り理解していると言

う前提で講義が行われるが、受講生によっては基礎的な内容についても部分的に理解していない可能性が考えられるのであれば、上級のクラスであってもある程度は基礎的な説明を行う必要があると思われる。

3. 来年度以降の展開

結果的に今回の試験運用は当初予定通りの講義効率の向上および学生の学習意欲に効果があったと思われるが、実際の運用に際して判明した改善点、調査結果を基に考えられる来年度以降に実施すべき改善がいくつか判明した。

改善点のうち最優先課題であると考えられるものがカリキュラム内容の統一である。今年度の試験運用に関しては各担当教員がシラバスを提出した後に実施が決定されたため、各担当教員対して事前に共通シラバスの作成を依頼することができず、結果として事前に実施内容として通達できたのは習熟度別で講義を実施する事、各教員の担当する習熟度および所属する学生像、成績評価のガイドライン等にとどまった。その結果、シラバスにはこれまでどおりの教員によってそれぞれ異なる講義内容が記載され、ある担当教員が春semesterで実施する内容が別の教員の担当クラスでは秋semesterで実施される状態となった。従来の通年単位で講義を行うリテラシー科目であれば取り扱う内容やその順序については教員の裁量範囲で決定すべき事であるが、習熟度別クラス編成で情報リテラシー教育を実施し、当初案通り期中に所属クラスを移動する事を可能とする制度を導入するのであれば講義内容及び順序について綿密な打ち合わせが必要となる。仮に期中に所属クラスを移動できる制度を採用しない場合であっても各習熟度間での講義内容の調整や同一習熟度のクラスの講義内容をある程度均一化し、共通シラバスを作成する事が必要であると考えられる。

次に改善すべきと思われる点は初回ガイダンス時に学生に提供する情報量の増加である。今年度のガイダンスでは各習熟度の説明および成績評価方法等の説明を行い、大多数の学生はその情報を元に自分の所属するクラスを正しく選択できたと回答しているが、数%の学生が所属クラスに対するミスマッチ感を感じているのも事実である。これを完全に解消する事は難しいが、少しでもミスマッチ感を感じる学生を減らすためにガイダンス時により詳細な講義内容を説明することが望ましいと思われる。

これに関しては上記改善点でふれた共通シラバスを作成し、ガイダンス時にその内容を改めて学生に説明することでかなりの改善効果が期待できると思われる。

また、検討すべき点として本学の高大一貫七ヶ年計画による入学前の前単位取得についても何らかの対応が必要であると考えられる。入学前に情報リテラシー科目の単位を取得した学生については春セメスターの履修が免除される事になるが、その結果として春セメスターに行われるクラス編成ガイダンスに出席する機会を失い、また春セメスター初回講義時に行われる情報倫理教育に関しても受講が不可能となる。さらに他の学生とは異なり半期の間大学において情報教育を受ける機会が失うため、入学前に会得したコンピュータの操作を始めとした知識や技術を忘却してしまっている学生も散見する。実際に今年度、高大一貫教育を受け秋セメスターから習熟度別リテラシー科目を受講した6名の学生の内、4名がコンピュータ操作に自信が無いと言う理由で基礎クラスである☆クラスを選択し、残る2名も中級の☆☆クラスを選択していた。これはつまり入学前に情報処理教育を受け単位を取得済みの学生は優秀であると思われていたが、実際には春セメスターから受講している学生よりも知識・技術面に自信を持ってない学生が多く存在している事になる。

つまり事前に単位を取得可能であると言うことは一見特典であるように見えるが、実際に学生にとっては不利益となる点も多いと考えられる。これに対応するためには単純に単位を与えて履修免除を行うのではなく、講義履修上の何らかの特典を与えた上で上級クラスを履修させる等の学生がより勉学に励むことができる仕組みへと変革を行う必要せいがあると考えられる。

最後に検討すべき点は期中、あるいはセメスター末に所属クラスを変更する事が可能な制度を導入するかどうかである。当初情報コースで習熟度別情報リテラシーの実施を検討していた際には講義予約システムの導入によって学生の所属クラスを管理し、3回程度の講義を1単位としたセッション制でクラス変更を認める方向で実施案が作成されていた。しかし、実際の運営にあたっては情報リテラシー単独での習熟度別クラス編成ではなく、英語および日本語の各クラスと連携した形で実施される運びとなった。このため、情報リテラシーのみがクラス移動を認める事が妥当であるかどうかについて検討が必

要であり、さらにアンケート結果では学生のクラス移動に関するニーズが予想よりも低かった点をふまえ、クラス移動自体が必要であるかどうか改めて検討を行う必要があると考えられる。

Ⅲ. 本学における「少人数教育」導入に関する報告：国語

岡 部 嘉 幸

0. はじめに

国語科ではかねてより、近年の国語力低下という状況の中で、商学部における必修科目としての「国語」について議論してきた。そのなかで得た結論は、現行の授業内容の見直しと授業クラスの少人数化ということであった。

また、平成16年度に設置された商学部改革検討会議において、学生のドロップアウト対策が本学の短期的に解決すべき緊急課題の一つとして挙げられ、その一環として、「国語」の授業クラスの少人数化が提案された。

以上のような経緯により、平成18年度より「国語」の少人数教育を行うことが商学部教授会において提案され承認された。これに先駆けて今年度は一部クラスを少人数化し、試験的に少人数教育の「国語」の授業（以下、本報告では「少人数『国語』』と呼称する）を行っている。本稿は、春セメスターを終えた少人数「国語」に関する学生評価と今後の課題について報告するものである。

1. 必修科目としての「国語」の現状と問題点

少人数「国語」に関する学生評価について述べる前に、従来の「国語」の現状とその問題点について簡単に述べておく。

従来の「国語」はクラス人数が約50人の1年次共通必修科目である。授業の形態は、50人という人数的制約から、好む好まざるに関わらず、講義形式にならざるを得ない。また、授業内容は、基本的に各教員の裁量に任されているものの、講義形式という制約があるために、多くの場合「国語学」あるいは「国文学」的な内容を教えるということになる。

一方、本学商学部の学生の現状を見ると、「読み」、「書き」、「話す」能力（いわゆるリテラシー能力）の欠如し

ている学生が少なからず存在する。かような学生にとっては、講義形式の授業は「聞いても内容が理解できない」し、「聞いた内容をノートに取ることができない」ものとなっている。その結果、必修であるにも関わらず、1年次で単位取得することができず、2年次に再履修する学生が増加するという問題が起こっている。このことはドロップアウトの問題（3年進級時に取得単位数の関門を設けている本学においては、ドロップアウトの原因の一つとして、1、2年次における取得単位数の不足があることは明らかであろう）とも大きく関わってくる問題である。

また、商学部という学部の性格上、「国語学」あるいは「国文学」的な内容に興味を持たない学生が少なからず存在することも事実なのであって、そのような内容の授業を商学部の一年次の必修科目とする必然性が見出しにくくなってきている¹⁾。

このような問題を解決するには、

- ①講義形式ではなく、少人数クラスによる学生の作業を中心とした授業を行うこと
- ②学生たちのリテラシー能力の向上を図ること

が必要となってくる²⁾。①と②は独立した項目ではなく、互いに相関関係にある。すなわち、効果的なリテラシー能力の向上を図るためには、講義形式ではない少人数の授業形態が必要であるということである。「国語」の授業内容の変更と、それに伴うクラスの少人数化が平成16年度の教授会に提案され、了承されたのであった。

授 業 計 画	第1回	書くこと	第1回	自己推薦書
	第2回	語を正確に使う	第2回	自己推薦書
	第3回	語を正確に使う	第3回	志望理由書
	第4回	文の組み立て	第4回	志望理由書
	第5回	文の組み立て	第5回	志望理由書
	第6回	小論文とは	第6回	作文の書き方
	第7回	小論文とは	第7回	作文の書き方
	第8回	小論文とは	第8回	エッセイの書き方
	第9回	「型」を守って書く	第9回	エッセイの書き方
	第10回	「型」を守って書く	第10回	手紙の書き方
	第11回	原稿用紙の使い方	第11回	手紙の書き方
	第12回	内容を深めるために	第12回	手紙の書き方
	第13回	内容を深めるために	第13回	手紙の書き方

2. 平成17年度における少人数クラスの概要

2-1. クラス人数

少人数「国語」は、従来の50人クラスを二分割した25人程度のクラス人数となっている。今年度は、4クラスが少人数「国語」として運営され、2名の教員（専任1名、非常勤1名）がそれぞれ2コマずつ担当している。

2-2. 授業内容

1. で述べたように、少人数「国語」は、日本語の実際の運用能力（「読み」、「書き」、「話す」能力）の向上を図ることを第一の目的とする科目である。そのなかでも特に、今年度のクラスでは、さまざまな文章を「書く」能力の向上、すなわち、文章表現能力の向上に重点をおくこととした。ここで「書く」ことに重点を置くのは、「話す」ことの鍛錬には、「書く」ことの鍛錬より、より少ない人数による授業形態が必要となり、開講が現実的でないという理由、および自己の思想を伝達するに足る「話す」能力が養われる基礎は表現の修練にあることによる。授業方法としては、学生が実際に文章を書く作業の機会を増やし、それを通して個々の学生の文章表現能力の向上を図るものとした。以上のようなガイドラインを担当教員に示し、それぞれの担当教員が、これに従ってそれぞれカリキュラムを作成した。参考までに今年度の小人数クラスの「国語」の授業計画を以下に示しておく。

授 業 計 画	第1回	ガイダンス	第1回	ガイダンス
	第2回	読むためのテクニック	第2回	文章表現（実践編）
	第3回	読むためのテクニック	第3回	文章表現（実践編）
	第4回	読むためのテクニック	第4回	文章表現（実践編）
	第5回	読むためのテクニック	第5回	文章表現（実践編）
	第6回	読むためのテクニック	第6回	文章表現（実践編）
	第7回	読むためのテクニック	第7回	文章表現（実践編）
	第8回	文章表現（基礎編）	第8回	特別な言語表現
	第9回	文章表現（基礎編）	第9回	特別な言語表現
	第10回	文章表現（基礎編）	第10回	特別な言語表現
	第11回	文章表現（基礎編）	第11回	特別な言語表現
	第12回	文章表現（基礎編）	第12回	特別な言語表現
	第13回	まとめ	第13回	まとめ

1) 母語としての日本語のより良い理解のために、そのような内容の「国語」は必修であるべきだという議論もありうるが、本学の現状から鑑みると現実的ではない。現状からいえば、現行の「国語」は、「哲学」や「歴史学」のように、人文自然の選択科目として、この分野に学問的関心を持つ学生だけに履修させるべきだと考える。

3. 春セメスターにおける少人数クラス編成に対する学生評価

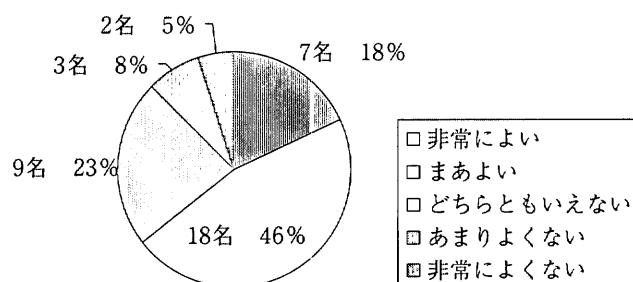
この節では、少人数「国語」に関する学生アンケートの結果を報告する。アンケートは、少人数「国語」受講者52名（2クラス分）、および、従来型の「国語」受講者104名（2クラス分）を対象として行い、それぞれ39名分（少人数「国語」クラス）と89名分（従来型の「国語」クラス）の回答を得た。

3-1. アンケート結果

3-1-1. 少人数「国語」用アンケート

少人数「国語」クラスでは、以下の【S1】から【S7】までの計七項目のアンケートを行った。アンケートの内容および結果は以下のとおりである。なお、【S2】【S3】【S6】【S7】は自由記入方式の質問で、記入されたコメントについては、3-2. アンケート結果の分析のところで適宜紹介する。

【S1】このクラスの人数は通常の国語の授業人数（約50人）よりも少ない25人程度ですが、この人数についてどう思いますか。

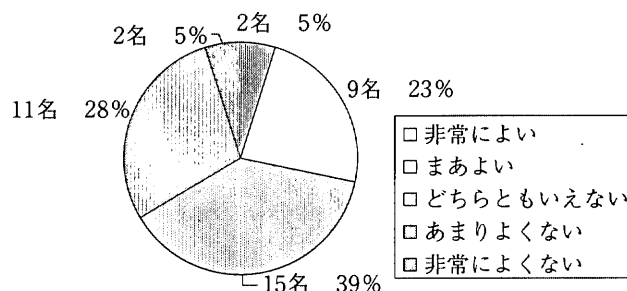


【S2】【S1】で「非常によい」「よい」「どちらともいえない」と答えた方のみお答えください。「よい」または「どちらともいえない」と感じた理由を教えてください。

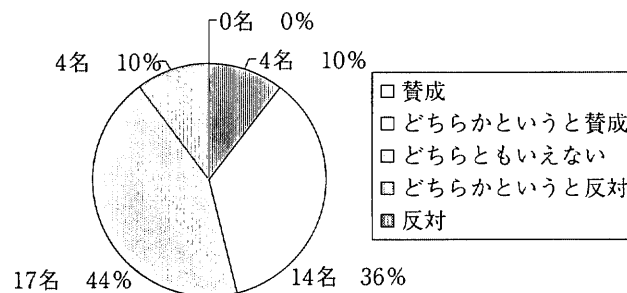
【S3】【S1】で「よくない」「非常によくない」と答えた方のみお答えください。「よくない」と感じた理由を教えてください。また、どの程度のクラス人数が

適当だと思いますか。

【S4】授業のやり方についてお聞きします。この授業では、授業を聞くだけでなく、皆さんが様々な課題や作業を行うことが多かったと思いますが、このような授業のやり方についてどう思いますか。



【S5】来年度、すべての国語の授業を少人数化することについて、あなたはどのように思いますか。



【S6】これからの国語の授業の中に取り入れてほしい内容があればお書きください。

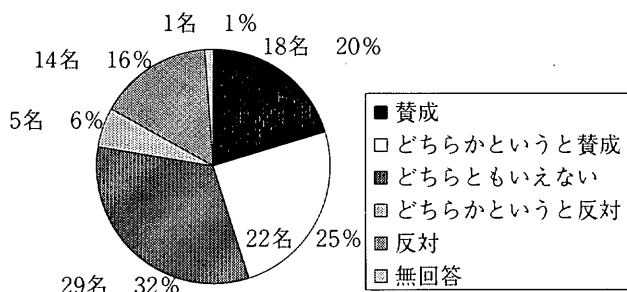
【S7】その他ご意見ご希望があればお書きください。

3-1-2. 従来型「国語」用アンケート

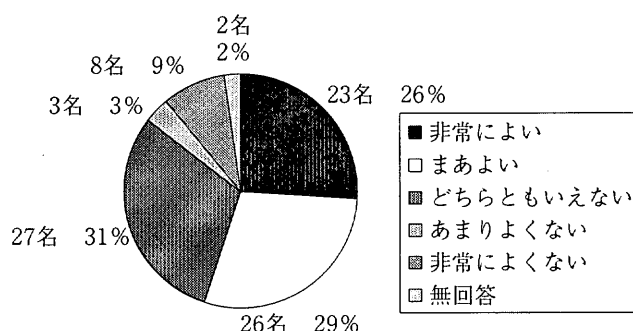
従来型の「国語」クラス（50人クラス）では、以下の【L1】から【L4】までの計4項目のアンケートを行った。アンケートの内容と結果は以下のとおりである。なお、【L3】【L4】は自由記入方式の質問で、記入されたコメントについては、3-2. アンケート結果の分析のところで適宜紹介する。

2) この問題に対して、これまで本学の「国語」担当者が無関心であったわけではない。むしろ、学生のリテラシー能力の向上を目指し、相当の努力を行っていることは記しておかなければならない。しかし、個々の担当者の努力によって、解決できることには限界がある。この問題は、各教員の努力で解決できる問題ではなく、むしろ、50人の講義形式であるという制度上の欠陥であったと考えられる。

【L 1】国語のクラスの人数を現行の約50人から、その半分の25人程度に減らすことについて、どう思いますか。



【L 2】授業のやり方についてお聞きます。クラスの人数を現行の半分にする事で、皆さんが具体的な作業（例えば、ビジネス文書を書く、志望理由書を書くなど）を行う機会が増えます。皆さんが実際に作業することを通して、個々の日本語の表現技術を向上させるような授業についてどう思いますか。



【L 3】これからの国語の授業の中に取り入れてほしい内容があればお書きください。

【L 4】その他ご意見ご希望があればお書きください。

3-2. アンケート結果の分析

3-2-1. クラスの少人数化について

小人数クラスについては、【S 1】から、現在、少人数「国語」を受講している学生の64%が「非常によい」ま

たは「よい」という評価を行っていることがわかる。その理由（【S 2】コメント）としては、「授業が静かであること、（その結果として）講義が聞きやすく、授業に集中できること」（11名）、「先生に質問しやすいこと、作業時において先生からたくさんアドバイスをもらえること」（10名）などが挙げられている。つまり、学生は「静かで集中できる勉学環境」を、そしてまた、「授業がわかる」ことを望んでいるのであり、少人数クラスはこれにうまく対応しているということである。このことが、約7割の支持をうけている理由であると考えられる³⁾。なお、23%の学生が「どちらともいえない」という評価を下しているが、その理由（【S 2】コメント）として挙げられているのは、「自分がしっかりしていれば人数は関係ない」（3名）というもので、少人数化そのものを否定しているわけではない。

ただ、13%の学生が少人数クラスについて、「よくない」「非常によくない」という評価を下している。具体的な理由（【S 3】コメント）としては、「多いほうがやりやすい」（2名）、「もっと人数が少ないほうがよい（具体的には10名程度）」（1名）というものである。後者は、結果的には少人数クラスの支持であるので、問題ないが、前者については考慮する必要がある。「多いほうがやりやすい」というのは、【S 7】で、「課題をなくして欲しい」「作業や課題が多すぎる」という意見があることを鑑みると、50人クラスのほうが学生にとって、作業の機会が減るので、「やりやすい」ということではないかと推察される。このことは、3-2-2. で述べる授業方法および授業内容とも関連するが、本学の学生の勉学意欲に見合った適度な作業量と課題量というものを国語科全体の課題として検討する必要性を感じさせる。

なお、【S 5】の「来年度、すべての「国語」を少人数化すること」に関しては、「賛成」「どちらかという賛成」が46%、「どちらかという反対」が10%（「反対」は0%）、「どちらともいえない」が44%となっている。【S 1】よりも少人数化支持の割合、反対の割合がともに減少し、「どちらともいえない」とする割合が増加してい

3) 本学商学部の「国語」担当者であるA先生の場合、平成14年度春セメスターでは、履修者49名中33名が不合格（約67%）、平成16年度春セメスターでは、51名中21名が不合格（約41%）となっていた（平成15年度は資料なし）が、今年度春セメスターの小人数クラスでは、26名中4名（約15%）と27名中6名（約22%）が不合格という結果になっている。従来型のクラスに比べると不合格者は半分以下に減っている。これは、まさに小人数クラスが「静かで集中できる勉学環境」と『『わかる』授業』とを実現している（結果、単位を取得できる）ことの一例であろう。

る。これは、恐らく、従来の50人型と少人数型との二つの場合を経験していないことにもよるであろうし、また、来年度のことなので、判断を保留した学生が多かったということであろう。全体としては、「賛成」が「反対」の約4.6倍であり、少人数化支持が優勢であることに変わりはない。

また、従来型の「国語」を受講している学生の意識を見てみると、『L1』から、受講者の45%がクラスの少人数化への賛意を示していることがわかる。態度を保留するものも32%いるが、反対（「どちらかという反対」と「反対」）が22%と、賛成の半分以下であることを考えると、全体の傾向としてはクラスの少人数化への期待が大きいと思われる。

以上のように、クラスの少人数化については、全体として高い評価と支持を得ていると考えられる。

3-2-2. 授業方法および授業内容について

次に、授業方法および授業内容についてみていく。既に、2-2. で述べたように、今年度は文章表現能力の向上に重点をおき、学生の実際の作業の機会を増やす授業を行った。このような授業方法への学生の評価は、『S4』のようなものであった。「非常によい」「まあよい」が28%、「どちらともいえない」が39%、「あまりよくない」「非常によくない」が30%である。評価を保留している学生が一番多いが、「よい」という評価に比べて、「悪い」という評価が2%ではあるが勝っていることが注目される。評価の理由を直接に問うことはしなかったが、『S7』でのコメントを参考にとすると、「悪い」と評価する理由には次の2つがあると考えられる。

第一に考えられるのは、「課題をなくして欲しい」「作業や課題が多すぎる」といったコメントからもわかるように、学生による作業の機会が多いことへの抵抗感や忌避感である。学生の間では、「出席するだけで単位がとれる」科目（いわゆる「楽勝科目」）を「よい」科目とする傾向があるので、その観点でいくと、毎回の作業を課せられる少人数「国語」は単位取得に努力を要する「よくない」科目ということになるのであろう。

ただ、従来型の「国語」受講者に、学生による作業を

中心とし、それにより自己の文章表現力を向上させる授業についてどう思うかを聞いたところ（『L2』）、55%の学生が「非常によい」「まあよい」という評価を下しており、学生の「文章表現力を向上させたい」という意欲は高いと考えられる。本学の学生の勉学意欲や学生のニーズと見合うような形で、作業量や作業内容を確定させていくこと、そして、その問題について「国語」担当教員の間である程度の共通認識を共有すること、というのが今後の最重要課題の一つといえよう。

学生のニーズがどのあたりにあるかについては、今後「国語」の授業で取り入れて欲しい内容について質問（『S6』、『L3』）が参考になる。複数の学生から回答があったコメントを以下に紹介する。

- 就職や資格取得に役立つこと（例：ビジネス文書の書き方、漢字検定の練習、敬語、手紙の書き方）：12名
- 最近の言葉遣い（間違った言葉遣い）について、正しい日本語について：4名

このような意見も参考にしつつ、次年度以降、授業内容を検討したい。

授業方法や授業内容に関して「よくない」という評価を学生が与える理由として、第二に考えられるのは、「人それぞれの能力にあわせて授業を行ってほしい」あるいは「もっと簡単にしてほしい」というコメント⁴⁾に見られるように、どのような授業方法であるか以前の問題として、授業内容の難解さゆえに勉学意欲が低下したということではないだろうか。「英語」「情報リテラシー」と異なり、「国語」の場合は、習熟度別の授業を導入していないが⁵⁾、上記のような意見が、少ないとはいえ、存在することを考えると、今後、習熟度別の授業の導入について検討する必要があると思われる。

4. まとめと今後の課題

以上、学生アンケートの結果をふまえながら、春セメスターにおける少人数「国語」の試験運用に関する評価と問題点について見てきた。最後に本報告で述べたことをまとめておく。

- (1)「国語」のクラスの少人数化については、高い評価と支持を得ている。

4) 合計で4名の学生が、上記のようなコメントを書いている。

5) 25名程度の人数であれば、個々の学生の国語力に差があったとしても、それぞれの学生の能力にあわせた個別対応が可能であると考えたからである。

- (2) 今年度実施した、学生による実際の作業の機会を増やし、それによって学生の文章表現能力の向上を図るという授業方法については、支持する学生と支持しない学生がほぼ拮抗している。
- (3) (2) の授業方法を支持しない動機としては、①学生自身の作業の機会が増えることに対する抵抗感、②そもそも授業内容が難解で理解できないことによる勉学意欲の低下 ということが考えられる。
- (4) 自己の文章表現能力を向上させたいという意欲をもつ学生は多い。

以上のことをふまえ、来年度における完全実施に向けた今後の課題として考えられるのは、

- (1) 本学の学生の国語力・勉学意欲・ニーズに見合う形で、学生が行う作業の量や作業の内容を策定すること。そして、その策定された内容について、担当者全員が共通認識をもつこと。
- (2) 少数ながら存在する、授業内容がわからない学生への手当てとして、習熟度別のクラス編成が必要か否かを再検討すること。

ということである。なお、来年度の完全実施において、時間割編成を火曜日の1・2限と水曜日の4・5限とすることが予定されているが、水曜日4・5限は専任教員が出講不可能なため、非常勤講師を新たに増員する必要がある。将来的な更なる改革も視野に入れた上で、この時限に限らずに合理的な時間割を組み立てを検討することも、今後の課題といえよう。

以上、簡単ではあるが、「国語」クラスの少人数化に関する学生評価と今後の課題について報告した。

IV. 本学における「少人数制・習熟度別クラス編成」導入に関する報告：英語

富田 雄一郎

1. 導入に至る本学の英語教育の現状と導入の目的

本学の英語教育において「少人数制」と「習熟度別クラス編成」の導入が急がれたのには2つの理由がある。第一

には全学的なドロップアウト防止策に関わり英語科として英語科目における対応策を検討する必要性が出て来たこと、第二に英語教育経験の全くない留学生（主として朝鮮族の留学生）が急増し現行制度の枠内で緊急かつ適切な対応を迫られたこと、しかも今後も増えるであろうという見通しにより場しのぎ的な対策ではなく恒久的システムの考案が要請されたこと、である。「少人数制」によって学生ひとりひとりに現在よりも細かい目配りと個別指導が可能となり、結果的に「単位を落とす＝ドロップアウトする」学生を減少させる効果が期待され、また「習熟度別クラス編成」によって英語未経験の留学生は自然とひとつのクラスに集められることになり、日本人学生と同一カリキュラム・同一環境内で無理なく初級英語教育が可能となる。つまり「少人数制・習熟度別クラス編成」の導入は、これら2つの急務の課題を同時に解決するのに極めて有効な方策と考えられたのである。更にかねてより検討課題のひとつでもあった英語のスキルアップに関心の高い優秀な学生に対するケアに関しても「習熟度別クラス編成」が有効性を持つと期待された¹⁾。現在、商学部にはそうした学生向けの選択科目として「上級英語」が存在してはいるが、導入後は1年次からのエリート教育が可能となる。少なくとも混合クラスが原因となるモチベーションの低下問題は排除できる。すなわち「一石三鳥」が期待されたわけである。

本年度はあくまで試験的部分導入という形を取り、その成果を見極めて改めて全面実施の可否及び導入方法の微調整を行うというのが3科目に共通する方針であるが、英語における対象を1年次必修の「リーディング・ライティング」に決定した理由をまず述べておかねばなるまい。現在、商学部1年次必修の英語科目は「聞く・話す」技能中心の「リスニング・スピーキング（通称リス・スピ）」と「読む・書く」技能中心の「リーディング・ライティング（通称リ・ライ）」の2コマである。「リス・スピ」に関してはCALL教室の収容人数（36名定員）の関係もあってすでに少人数化が実現されており、また本学学生のリスニング能力の差が顕著でないことから、少々

1) 完全希望者制ではないので成績優秀でもやる気のない学生が入り込む可能性はあるが、少なくともエリートクラス創設によって、スタート時点において優秀な学生のモチベーションを低下させない効果は期待できるだろう。だが今後、2年次以降、特に就職を目前にしてTOEICなどの資格試験の必要性を感じ始めた学生、短期・長期留学を目指す学生などに対する講義新設の必要性も強く感じている。

するなど、少なくとも現段階においては、混合クラスでも対応可能であると判断した。これに対し「リ・ライ」は倍の50名クラスであり、従ってこれに手をつけることで、まずは1年次における英語教育の少人数化を徹底することにしたのである。むしろ「リス・スピ」も習熟度別であるに越したことはなく、2年次必修の「総合英語」にも両制度が導入されることが理想的であるが、今回はひとまず「リ・ライ」の制度を完成させ、1年次の英語教育をより充実したものにすることを優先した。「リス・スピ」と「総合英語」の改善は今後の課題である。

2. クラス編成における配慮とプレイスメント・テスト

本年度は試験的に10組中3組を対象とするという決定を踏まえて、英語科では50名の1組を2分割、すなわち25名のクラス単位に分割し、更に「プレイスメント・テスト」を実施して成績順に6クラス＝6段階に振り分けることにした。施行前の予測としては、中級程度の能力の学生が大半を占め、能力差はそれ程大きなものにはならないと思われたが、少なくとも、英語未経験の留学生と中学1年次の文法さえ習得できていないすなわちほぼ未経験に近い日本人学生——疑問文・否定文すら理解していない学生が多数存在する——とを切り離して初級クラスに配置すること、さらに英語能力の高い学生を上級クラスに配置しエリート教育を施すことを今回の最大の目的とした。従って初級及び上級クラスを少な目にする、しかしながら中級クラスができるだけ30名を越えないように配分を心掛けた。

クラス配分の際に重要なのは、いかにして能力を正確に測定し適切なレベルのクラスに配置するかという問題である。そのためプレイスメント・テストの形式・内容・判断方法そのものも重要な検討課題の一つとして浮上してくることとなった²⁾。将来的な前面実施のことを考えると形式としては当然マークシート方式が妥当である。だがその際注意すべきは、偶然の結果により実質能

力以上のクラスに配置される可能性をあらかじめできるだけ排除しておくこと、いわゆる「まぐれ当たり」をいかに排除するかである。その対応策として、まず第一に、資料1のようにテストを「基本・初級レベルの問題」³⁾と「中級レベル以上の問題」の二層構造とし、採点に際しても両得点を峻別、たとえ総合点が高くても基本問題の得点が低い場合には偶然の結果と見做し、推定能力以上の上位クラスに配置しないよう工夫した。第二に、それでもなお本来の能力と不釣り合いなクラス（上下共含む）に組み込まれる可能性が皆無ではないため、クラス編成後1～2週間を猶予期間とし、学生の希望によりクラス間移動を認める対応を施した。ただし正当事由ありと関係教員が認めた上での許可である。特に成績評価において上級クラスと初級クラスでの優・良・可の比率にある程度の差を設けることに決定したため⁴⁾、学生のモチベーションを低下させないためにも或いは逆に高めるためにも、できるだけ自主性を尊重する必要があると判断したのである。

移動許可後の最終的なクラス人数の結果は、上級に相当する1クラス24名、中級程度に相当する2クラス28名、3クラス31名、4クラス24名、初級に相当する5クラス23名、そして留学生中心の入門クラスに相当する6クラス20名となった。厳密なレベルの分析は不可能だが、やや中級の多い3段階程度に別れたように思われる。なお、今年度は専任2名、非常勤4名で対応した。

3. アンケート調査による結果分析

さて「少人数制・習熟度別クラス編成」導入の可否であるが、春セメスター終了時における教員側の見解は全員一致で「有効である」ということであった。しかしながら、システムの有効性はそのシステム内の関係諸員の気質とも無関係ではなく、本学の学生にとって「少人数制・習熟度別クラス編成」が適切であったか否かをそれだけで判断するわけにはいかない。そこで、春セメスタ

2) クラス間移動に関しては勉強以外の理由（友人がいるなど）で移動を求める危険性があるが、学生の実態をまだ掴めていない新年度草々にそれを判別するのは困難である。それに対処するには、配置されたクラスがいかに適切であるかという厳密な理論的根拠が必要となる。適切なクラスに配置されているのかどうかは学生側の最大の不安でもあるだろう。従って専門業者のテスト導入も含めてテストの精度向上を検討していかなくてはならない。

3) 問題を見ていただければ一目瞭然であるが、「基本・初級レベルの問題」は中学1年次に習う基本中の基本問題ばかりである。にもかかわらず半分以下しか得点できなかった学生が全体の半数を占める結果となった。これが本学学生の英語能力の現状である。

4) 苦勞しても良い成績を取りたいという熱意ある学生が上位クラスに移動できるように、成績配分についてはあらかじめ学生に告知してある。モチベーションを高める装置としてうまく機能させていくことが望まれる。

一終了時に資料2のようなアンケートを取り学生の意識調査を行うこととした。設問の前半(1~3)は「少人数制」、後半(4~6)は「習熟度別クラス編成」に関する調査である。回答数は122名、81.3%の回収率であった。結果は以下の通り、「まあよい」を「よい」に準じた「賛成」と解釈するならば、導入に肯定的な意見は「少人数制」89パーセント、「習熟度別クラス編成」76パーセントにも及び、どちらもほとんどの学生から支持されたことになる。来年度以降の全面導入に至ってはどちらも90パーセントを越える賛同を得ている。これを見る限り本学の英語科目における「少人数制・習熟度別クラス編成」導入は成功だったと結論づけてよいであろう。また、アンケートに際しては賛成・反対の理由を記載してもらうようにしたので、コメントのいくつかを紹介しつつも少し詳しく実情を分析して行こうと思う(資料3参照)。必ずしも全員が回答したわけではないので網羅的ではなく、また見当違いなコメント、説明不足で意味不明なコメント、首尾一貫しないコメントなども散見されたが、それらすべてをひっくるめてそこから現時点における本学学生の意識のなにものが見えてくるはずだ⁵⁾。

「少人数制」に関しては「集中できる」「勉強しやすい」「わかりやすい」などの意見が多く、「質問しやすい」という回答も目立った。つまり静かな集中できる環境、教員との密接なコミュニケーション、そして何より「わかる」授業を望む学生の姿がここから浮き上がってくる。一方反対意見としては「指名される回数が増える」という消極的な意見も見られる。怠惰ゆえか指名されることへの不安ゆえかは不明で、個別に注視して判断・対応すべきであるが、特に勉強そのものに対して既に心理的敗北感を抱えている学生が少なからず見られる本学の場合、できるだけ不安を与えない指名方法を配慮することもある必要なのだろう⁶⁾。「人数」は今回実施したよりもやや少ない「15~25名程度がちょうどよい」という結果になった。

「来年度の全クラス導入」については少々誤解があったようで、リ・ライにおける全面導入の可否を問うているはさすが、英語以外のすべての科目での導入と勘違いした回答も見られた(6も同様)。

「習熟度別クラス編成」に関しては「自分のレベルにあった勉強ができる」「授業についていける」「わかる」「のびる」などの見解が目につき、ドロップアウト減少に対する期待が高まる。やはりここでも授業を「理解したい」という学生の強い願望が表れている。学生はなによりも「わかる」授業を望んでいるわけで、われわれ教員は授業の構成に更なる配慮を懇請されていると認識すべきである。コメントを見る限り「まあよい」は「よい」とほぼ同じものと考えてよく⁷⁾、大方の意見は能力向上に有効と判断していると思われるが、だがそれ以上に、批判的なコメントに着目すべきであろう。そこにこそ現行システムに内在する或いは将来顕在化し得るマイナス要因が見出せるはずである。特に重要なものは、「下のクラスの人が少しばかり馬鹿にされている気がする」「差別的なものをを感じる」という、「習熟度別クラス編成」が頭の良し悪しの判定に直結し差別的な状況を生み出す危険性があるとする指摘である。確かに下位クラスに編成された学生の意欲を減ずる危険性があることは導入前に最も気がかりだった点である。だが一方で「頭の良い悪いで判断されるのがイヤだが学習するために良い環境だと思うのでいい」というコメントもあり、メンタルな問題さえ解決されれば実質的には学生自身は望んでいる制度なのである。しかも、こうした否定的なコメントは実のところ中級クラス以上の学生から出てきたものであり、初級クラスからの否定的見解は皆無だったという点にも注目すべきである⁸⁾。つまり英語が苦手な学生は、一方でランク分けに対する心理的不安を抱えながらも、他方でシステムの有効性と必要性を強く感じているのだと考えられるのである。彼らは体裁より実を求めている、それもぎ

5) 一番問題なのは「どうでもいい」というコメントを残した学生たちである。数の上からは決して多いわけではないが、コメントを残していない学生の中にもこうした「やる気のない」学生が潜伏している可能性は高い。格別の目的意識もなく、向上心もなく、状況に流されるままに入学してきた学生たちをどう導いていくか、ドロップアウト防止策の最大のポイントであり最大の難問である。

6) 特に英語の場合、心理的にマイナスからの出発であることが多く、例えば、間違えて恥ずかしいと思うシチュエーションを必要以上に多く作らない、答えられる質問を重ねることで自信を持たせることなどの工夫がクラスの質に応じて必要となるだろう。

7) コメントの内容は積極的に「賛成」なのに「まあよい」に回答した学生が多いのは日本的婉曲表現であろうと見てよいであろう。

8) 筆者が担当したのは実質的な最下位クラスだったが、明るく積極的な良い雰囲気の中で授業が行えている。下位クラス配置が原因のモチベーションの低下という懸念はアンケート結果から見ても現場の雰囲気から判断しても杞憂だったようである。

りぎりのところで「わかる」ことを切望している、そういう状況が今回の調査で浮き彫りにされたと読むべきであろう。従って、教員サイドがこうした偏見を持たないように肝に銘じるのは当然のこととして、学生間で差別的な話題が発生しないように、レベルの非公開（上級クラスはモチベーション向上のために公開すべきか）、教員による説明の徹底、秋セメスター時における再編成などの措置を含めて、可能な限りの予防策・対応策を教員間で検討していくべきであると考え。そのためにも担当教員間での意見・情報交換が密に行われる必要がある。今回の試験的導入で最も強く感じたことは教員間コミュニケーションの重要性と有効性であったかもしれない。

4. 今後の課題：全面導入に向けて

「少人数制・習熟度別クラス編成」は特に大きな問題もなく全面的に賛成多数で容認されたと結論付けられるが、最後に今後の運用に向けて注意すべき課題を整理して報告を終了することにする。

1. 能力レベルに合った適切なクラス配置

2. プレイスメント・テストの信頼性の確保と向上

何より重要なのが能力に見合ったクラス配置であり、それにはテストの診断結果に対する信憑性の確保がまず要請される。今回、テストの形式と判断方法にそれなりの工夫は加えたものの、今後より一層の精度の向上が要求される可能性は高い。そうした研究分野があり、実際に商品化もされている。全面実施の際には専門業者によるプレイスメント・テスト導入の必要性も含めて検討しなくてはならないだろう。

3. 下位クラスへのメンタルな配慮

今のところ懸念したような問題は表れていないようだが、問題が潜在化したままである可能性も捨てきれない。それを踏まえたうえで将来的な危険性に対する対応策（例えばクラス・レベルの秘匿、レベル差の少ないことの説明、秋セメスター時におけるクラス再編成など）を練っておく必要がある。まずは両セメスター開始時にクラス間移動を許可する説明をさらに徹底することが必要である。

4. モチベーションを高める工夫と再編成の必要性

苦手な学生には安心してやり直せる環境を与え、得意な学生には向上心を刺激するようなシステムを構築する必要がある。特に初級クラスの留学生たちは秋セメスタ

ーにはより上級のクラスがふさわしくなる可能性もあり、クラス変更の必要性或いは再テストによる再編成の必要すらあるかもしれない。今年度は秋セメスター時に学生から希望があった場合にのみ移動を検討することにしたが、今後再編成という可能性も含めて、どうすればモチベーションを高められるか工夫して行かなくてはならない。

5. レベルに応じた授業内容の充実

6. 教職員間でのコミュニケーションの重要性：情報の交換、対応策の協議

基本的に授業内容は各担当者の個性・創意工夫に任せるのが基本方針であるが、情報・アイデアなどの意見交換は頻繁に行い、問題が発生した場合には即座に対応策を協議できるような環境を常に整えておく必要がある。この点に関して今年度は極めてうまく機能したために成功したとも言える。準チーム・ティーチング制のような形が望ましい。

7. 成績評価の枠組みの体系化

上級クラスでは授業は厳しいが「優」の占める割合を他のクラスよりも多くし、初級クラスでは授業は易しく基本から丁寧に行うが「優」の割合を少なくすべき、というのが今年度の担当教員による統一見解であった。（ただし英語未経験の留学生中心のクラスは必ずしもこれに縛られない）。この措置の可否に関しては現段階ではデータ不足のため保留するしかないが、クラス選択をある程度認める以上、より明確にしておかなくてはならない指針である。

8. 2年次・3年次編入の留学生への対応

2年次・3年次編入の英語未経験の留学生をどうするかという問題認識が今年度は欠落していた。来年度以降人数・必要履修科目等を含めて予め対応策を練っておく必要がある。特に、英語未経験の編入生が1年次必修の「リス・スピー」「リ・ライ」と2年次必修の「総合英語」を同時に履修許可してよいかどうかはなはだ疑問であり、検討すべき問題である。

9. 1年次必修「リス・スピー」の「習熟度別クラス編成」導入の検討

10. 2年次必修「総合英語」の「少人数制・習熟度別クラス編成」導入の検討

「少人数教育」を本学教育制度の特色として掲げている以上、まずは50人クラスの「総合英語」を少人数化する

必要がある。「リ・ライ」の「少人数制・習熟度別クラス編成」の効果を見極め、更に選択制という可能性も含め、英語教育のありうるすべての形態を検討した上で、本学の学生にとっていかなるシステムを構築するのが最も望ましいか、常勤・非常勤共々、積極的にかつ慎重に検討を重ねて行かねばならない。

11. クラス人数の更なる少人数化

アンケート結果を見ると、現在の25～30名クラスより更に少ない15～25名が望まれており、今後の検討課題として残された。

12. 全面実施における時限の設定と教員増員の必要性

来年度は火曜日の1・2限と水曜日の4・5限を使って全面実施を行うことが現時点で決まっているが、水曜日に出講可能な人員がいない（専任は教授会）ため、非常勤講師を新たに増員する必要がある。将来的な更なる改革も視野に入れた上で、合理的な時間割を組み立てていくためにも、時限の設定等は今後慎重に検討すべきであると考ええる。

資料 1

Placement Test 2005

- * 合図があるまで問題を見てはいけません。
- * このテストの結果によりクラス編成を行います。
- * 問題用紙も回収するので組・学籍番号・名前を記入して下さい。
- * 問題は 40 問（1 頁～3 頁）です。

組 []

学籍番号 []

名前 []

問1 次の日本語を英語にしてください。

- | | | | | |
|--------|--------|--------|-----------|-------------|
| 1. 考える | 2. 書く | 3. 買う | 4. 日本人 | 5. オレンジ |
| 6. 口 | 7. 忙しい | 8. 美しい | 9. 8 (数字) | 10. 第一の・最初の |

問2 日本文に合うように選択肢から正しい答えを選んで、記号で答えなさい。

11. 私は中央学院大学の学生です。

I () a student at Chuogakuin University.

1. am 2. are 3. is 4. study

12. 彼は英語を上手に話します。

He () English very well.

1. speak 2. speaking 3. speaks 4. speech

13. 昨日僕に電話しましたか。

() you call me yesterday?

1. Are 2. Did 3. Do 4. Were

14. 彼らは明日来るだろう。

They () come tomorrow.

1. are 2. do 3. is 4. will

15. 兄は今サッカーをやっているところです。

My brother is () soccer now.

1. play 2. played 3. playing 4. plays

16. ジョンは私たちと一緒に夕食を食べました。

John had dinner with ().

1. I 2. me 3. us 4. we

17. 私には子供が二人います。

I have two ().

1. child 2. children 3. childrens 4. childs

18. アーサーは車を運転することができます。

Arthur () drive a car..

1. can 2. may 3. must 4. will

19. どこに行くのですか。

() are you going?

1. What 2. When 3. Where 4. Who

20. 今日の宿題はもう終わりました。

I () already finished today's homework.

1. did 2. finished 3. had 4. have

21. 『ハムレット』の作者は誰ですか。

Who is () author of *Hamlet*.

1. a 2. an 3. the 4. × (冠詞不要)

22. あの建物は1920年代に建てられました。

That building was () in 1920s.

1. build 2. building 3. builds 4. built

23. その箱は彼女には重すぎて持ち上げられない。

The box is () heavy for her to lift.

1. can't 2. enough 3. not 4. too

24. あそこに座っている人を私は知っています。

I know the man () is sitting over there.

1. which 2. who 3. whom 4. whose

25. そのうわさは本当に違いない。

The rumor () be true.

1. may 2. must 3. shall 4. will

26. ジョーは二時間も本を読み続けている。

Joe has () reading a book for two hours.

1. been 2. had 3. is 4. read

27. ミランダはバッグを二つ持っている。ひとつは黒でもうひとつは黄色だ。

Miranda has two bags. One is black, and () is yellow.

1. another 2. other 3. the another 4. the other

28. このゲームのやり方を教えましょう。

I will tell you () to play this game.

1. how 2. however 3. what 4. whatever

29. サマンサにパーティに来るかどうか聞いてみる。

I will ask Samantha () she will come to the party.

1. and 2. because 3. if 4. when

30. おなかが痛かったので寝た。

() I had a stomachache, I went to bed.

1. Because of 2. Since 3. Then 4. Though

→ 次のページへ

問 3 次の英文の間違いを探して、その箇所を記号で答えなさい。

31. ラジオでびっくりするようなニュースを聞いた。

I heard some surprised news on the radio.

1 2 3 4

32. 僕だったら彼の提案を受け入れるのに。

If I were you, I will accept his offer.

1 2 3 4

33. 車を盗まれた男は警察を呼んだ。

The man which car was stolen called the police.

1 2 3 4

34. 日本は合衆国ほど広くない。

Japan is not as larger as the United States.

1 2 3 4

35. 私はメグに 30 分待たされた。

I was keep waiting for half an hour by Meg.

1 2 3 4

36. お金がいくらか必要なのとキャリーは言った。

Carrie said that she needs some money.

1 2 3 4

37. その大学の言語学科の学生たちは、英語、スペイン語、フランス語のどれを取るか選択できる。

Students of the language department at the university has the option of taking

1 2 3

English, Spanish or French.

4

38. シャーロットは買い物に行くよりピアノを弾くのが好きだ。

Charlotte prefers playing the piano than going shopping.

1 2 3 4

39. イタリア語は話すことも読むこともできない。

I can either speak nor read Italian.

1 2 3 4

40. 夕立にあったので、式典に向かう途中、タクシーを使うことにした。

Be caught in a shower, we decided to get a taxi on our way to the ceremony.

1 2 3 4

解答用紙

問 1

1.	2.	3.	4.
5.	6.	7.	8.
9.	10.	計.....	

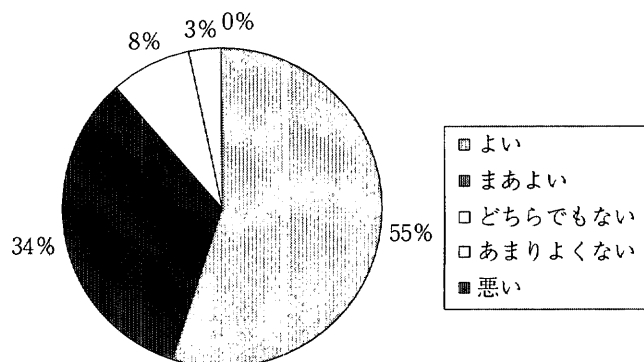
問 2

11.	12.	13.	14.	15.
16.	17.	18.	19.	20.
				計.....
				小計(1).....

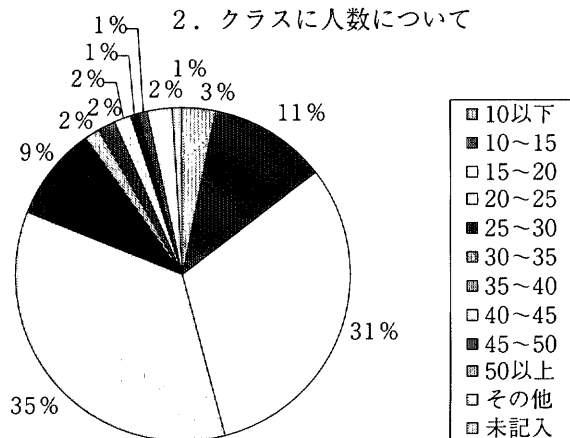
21.	22.	23.	24.	25.
26.	27.	28.	29.	30.
問 3				
31.	32.	33.	34.	35.
36.	37.	38.	39.	40.
				小計(2).....

組	[]	
学籍番号	[]	
名前	[]	総合計(1)+(2).....

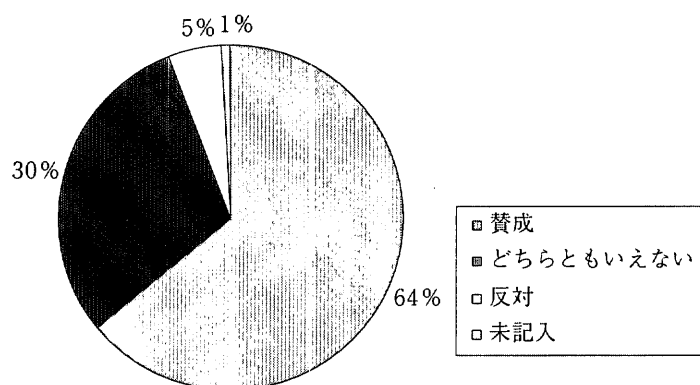
1. 「少人数制」について



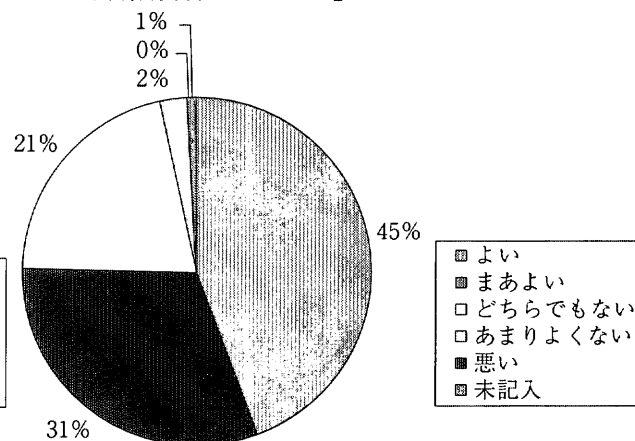
2. クラスに人数について



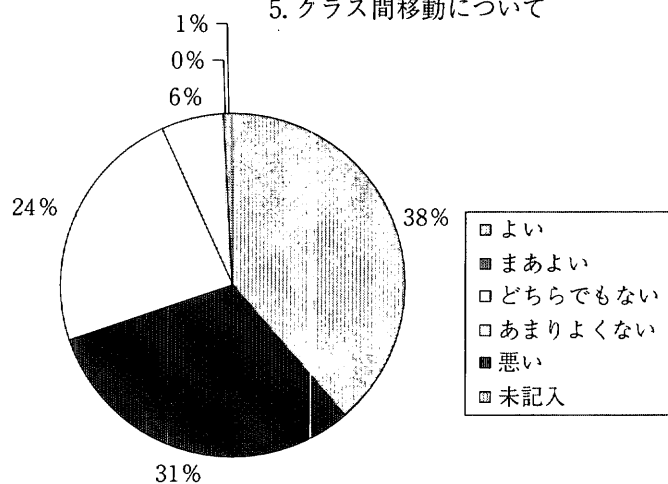
3. 「少人数制」の全面導入について



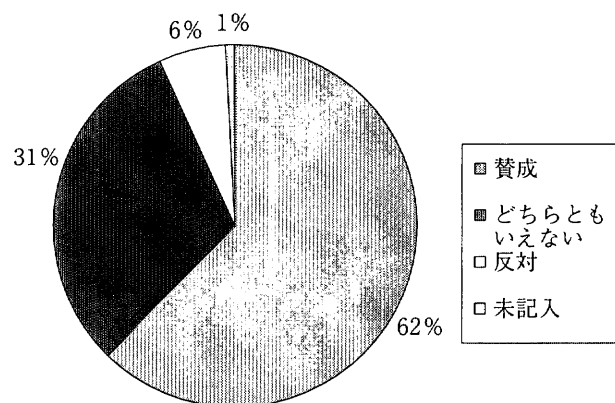
4. 「習熟度別クラス編成」について



5. クラス間移動について



6. 「習熟度別クラス編成」の全面導入について



資料3

英語リーディング・ライティングにおける
「少人数制・習熟度別クラス編成」導入に関するコメント一覧

* ()内はクラス、性別を表わす。ないものは未記入。また誤字・文法の間違いなどもそのまま表記してある。

1 「少人数制」についてどう思いますか。

1. よい

勉強しやすい (1・女) / うるさい奴らが少ないから (1・男) / たくさん人がいるとがやがやしておちつかない (1・男)
/ 英語というのは現時点の年齢に達していると個人差がある為、少人数で行わないと低レベルの能力の者はおいていか
れる可能性があるから (1・男) / 小教室で授業することで先生の声が裏まで聞こえるから (1・男) / 1人1人対応してく
れるから (1・男) / やりやすい (1・男) / 集中でき、レベルの高い勉強が出来るから (1・男) / 先生と話しやすい (2)
/ わからないところがよくきける (2) / 少ない方が集中できるし、楽しい (2) / わかりやすい (2・男) / 少人数のほ
うがやりやすいから (2・男) / 勉強しやすい (2・男) / その人のレベルにあっているから (2・男) / おもしろい (2・男)
/ わかりやすいから (2・男) / レベルにそった授業ができるから (3・男) / 先生の目がゆきとどき、授業を効率よくお
こなえるからです (3・男) / 普通の講義よりも人数が少ないので、自分の授業に目を通してもらえる (3・男) / 少人数
の方がわかりやすいから (3・男) / 質問がしやすいなど (3・男) / 質問がしやすい (3・男) / 質問しやすい (3・男) / い
いと思います (3・男) / 授業が聞きやすいから (3・男) / 多人数よりも話しが聞こえやすいし、先生が1人でも対応し
やすい (3・男) / 集中して授業が授けられた (3・男) / べんきょうしやすいと思う (4・女) / 授業がサボれなそうで、
積極的になれる (4・女) / 少人数なので先生の話が聞ける (4・男) / わかりやすかったし質問しやすかったから (4・男)
/ 質問がしやすい (4・男) / しずかで集中できる (4・男) / よいと思います (5・女) / 授業がよくすすめるとおもう (5・
女) / 声もよく聞こえるし、わかりやすかった (5・男) / とても分かりやすく、教わりやすい (5・男) / 人数が少ない
と一人一人が理解しやすい (5・男) / クラスの人がレベルが同じでやりやすかった (5・男) / 人数が少ないほうが授業
に集中できるから (5・男) / わかりやすい (5・男) / わかりやすく授業の内容が身につく (5・男) / 個々が同じレベ
ルだから授業などがやりやすい (5・男) / 自分のレベルにあったべんきょうができるから (5・男) / 英語を覚えられる
(5・男) / 教室が小さいため、質問がしやすい (5・男) / 先生の声が聞こえやすいし、うるさくならないから (6) /
勉強できるから (6) / 少人数なのでわかりやすい (6・男) / うるさくないから (6・男)

2. まあよい

集中して勉強受けられる (1・女) / 理解しやすい (1・女) / 先生が全員回れるから (1・男) / 多くもないし、質問もで
きるから (1・男) / 大げいじゃべんきょうにならない (1・男) / なんとなく落ち着く (1・男) / たくさんいるよりいい
し、先生に質問しやすい (1・男) / レベルに合った授業がうけられるから (2・男) / やりやすい。わかりやすい (2・男)
/ 何となく (2・男) / 質問しやすい (2・男) / しっかり聞けるからいい (2・男) / よくおしえてもらえるから (2・男) /
1人ずつ詳しく教えてもらえる (3・女) / 特に理由はありません (3・女) / 全体の平均レベルが上がると思う (3・男)
/ 少人数制は、まあ人数が少ない分よいと思った (3・男) / 一人一人回って教えられる (3・男) / 授業している感じが
する (3・男) / 少人数じゃなくともちゃんとできるものもある (3・男) / 少人数の方が、一人一人が集中できる (3・男)
/ 少人数制のほうが、先生に質問しやすいから (4・男) / ペースが合った (4・男) / 少人数の方が落ち着いてできると

思うから (5・男)

3. どちらでもない

どちらともいえない (2・男) / とくになし (2・男) / どちらにしてもあまり変わらない (3・男) / どうでもいい (3・男) / なし (4・男) / 自分は、別に良かった (4・男) / いい部分も悪い部分あった (5・男) /

4. あまりよくない

指名されるから (2・男) / 勉強の雰囲気がないと思います (3・女)

5. 悪い *コメントなし

2 ヒトクラスの人数はどれくらいが適切だと思いますか。「少人数制」導入前は 50 人で、今回はクラスによって異なりますが 20~30 人で編成しました。

1. 10 以下

少なければ少ないほどよい (1・男) / 講師が生徒を把握するには少ないにこしたことはないと思うから (1・男) / 少ないほうが納得しやすいかも (3・男) / より少ないほうが学習しやすい (3・男)

2. 10~15

多すぎず少なすぎず (2・男) / なんとなく (2・男) / よくはっぴょうする (4・女) / 先生が近いと勉強が聞きやすい (4・女) / 質問がしやすいし声もよく聞こえる (4・男) / 多いよりは少ないほうがいい (5・男) / 人数が少ない方が聞きやすい (5・男)

3. 15~20

1つの教室にはそれくらいがちょうどいいと思う (1・女) / 上と一緒に (1・男) / 15~20 が一番適していると思います (1・男) / うるさい人が出てくるから (1・男) / 少ないくらいの方が落ち着くから (1・男) / 集中できるし能力がつきやすいから (1・男) / なんとなく (2・男) / 調度良いため (3・女) / その人のレベルに合った授業良いと思うので (3・男) / 上に同じ (3・男) / 小さい教育でちょうどいいくらいだから (3・男) / 人数がすくなくればしゅう時間が長くできるからである (3・男) / 15~20 がちょうどいい (3・男) / 一人一人みてもらえるから (3・男) / どうでもいい (3・男) / 多いよりは少ない方が授業のこうりつも良いと思う (3・男) / 少人数の方が集中できる (4・男) / だいたい今がそれくらいでちょうどよかったから (4・男) / なし (4・男) / 今のクラスぐらいがいいと思う (5・男) / 静かで集中しやすい (5・男) / それぐらいがちょうどいいと思う (5・男) / 数が多いとレベルに差がでるから (5・男) / ちょうどいいから (5・男) / 教えてもらえるから (6) / ちょうどいいと思う (6・男)

4. 20~25

今ぐらいの人数でいいと思うから (1・男) / どちらでもいいが 4 のが自分としてはいい (1・男) / 1 でも言ったように先生に質問しやすいから、集中できるから (1・男) / 今と同じ (2) / 調度いい (2) / ちょうど良いと思うから (2・男) / だいたい同じでいいと思う (2・男) / いやすい (2・男) / そのくらいの人数がいいと思うから (2・男) / このぐらいが適切かなと思ったからです (3・男) / 50 人だと、1 クラスにいっぱいの気がするので今回の人数で丁度いいと思う (3・男) / 少ない方が教えやすいんじゃない? (3・男) / これぐらいならとくにになにげもなく勉強できそう (うるさくなさそう) (3・男) / 少人数の方がわかりやすいししつもんしやすいから (3・男) / 今ぐらいがちょうどいいと思う (3・男) / とくにないです (4・男) / 今のクラスのような 20 人程度のほうが多すぎず少なすぎずいいと思う (4・男) / 今の人数で良いと思う (4・男) / 多すぎるとうるさい (4・男) / 少人数でも少なすぎると、少人数制でないから (4・男) /

今の人数よりもうちょっと多いほうがいいと思う (5・女) / カオがおぼえやすい (5・男) / 実際にやってて分かりやすいから (5・男) / 今のクラスでちょうど良い (5・男) / 20~25 がちょうどいいと思う (5・男) / このくらいがちょうどいいです (5・男) / 20~25 人ぐらいが、多すぎないし、少なすぎないからいいと思う (6)

5. 25~30

多すぎるとうるさい (1・男) / 今の人数だから (2・男) / これぐらいいた方が楽しいと思う (5・男) /

6. 30~35

大体これくらいだと思う (2・男) / 高校生ぐらいだから (3・男)

7. 35~40

なんとなく (2・男)

8. 40~45

そのままでいいと思う。皆知っているから (1・女) / これが一番基本人数だと自分では思う (1・男) / 何となく (2・男) / 人数は関係ない (3・男)

9. 45~50 *コメントなし

10. 50 以上 *コメントなし

11. 複数回答

15~30 にチェック : 多すぎず少なすぎない程度だと思うから (3・男)

3 全クラスに「少人数制」を導入することについてどう思いますか。

1. 賛成

うるさくならないから (1・男) / 頭のいい人と悪い人ピンからキリまでいるからいいと思う (1・男) / 上記の理由と同様 (1・男) / 1 で述べた通り (1・男) / 1、2 と同じ理由 (1・男) / 1 と同じ (2・男) / 個々で質問しやすい (2・男) / 質問しやすいと思う (2・男) / 集中できる (2・男) / 一人一人の理解が深まるから (2・男) / 少人数制の方がやりやすいと思うから (3・男) / 少人数制は効率よく授業を行うのに便利だと思います (3・男) / 人数が多いと授業についていけなくなる人や、授業に感しんが持てない人が出てくると思うから、一人一人の勉強を見れるように、少人数制が良いと思う (3・男) / 少人数の方が理解しやすいから (3・男) / 1 と同じ (3・男) / いいと思うから (3・男) / 少ない方が教えやすいんじゃない？ (3・男) / よくなると思う (3・男) / より少ないほうが学習しやすいから (3・男) / 少人数の方が授業の環境がよいと思う (3・男) / 授業的によいと思うから (3・男) / 2 と同じ意見 (3・男) / うるさくならないと思う (4・男) / 学習しやすい環境になるから (4・男) / わかりやすくていいと思う (4・男) / 上と同じ (4・男) / 同上 (4・男) / 勉強がよくできると思うから (5・女) / やりやすいと思う (5・男) / 少人数制を導入することによって大学のレベルも上がってくると思う (5・男) / 勉強しやすいから (5・男) / いいと思います (5・男) / いいと思う (5・男) / 今がやりやすいからすごく良いと思う (5・男) / 少人数のほうがりかいししやすいから (5・男) / 授業に集中できる (5・男) / 勉強しやすい (5・男) / 少人数にこしたことはないと思う (6) / 大勢でやってもわからないから (6・男) /

2. どちらともいえない

少人数の方がやる気が出る (1・女) / そこは特に気にしてはいない (1・男) / 先生がやりやすければ生徒も (1・男) / ない (1・男) / 何ともいえないけど、少ない方がやる気が出る気がする (1・男) / 勉強する気がないと見れる人があるから (1・男) / 楽できる授業が減る (2) / わからん (2) / わからない (2・男) / どちらでもいいと思う (2・男) / 分

からないから (2・男) / どちらでもいい (2・男) / どちらでもいいから (2・男) / どうでも良いため (3・女) / 勉強がついていけない人は減るけどそれ以上のレベル up は見込めないと思う (3・男) / どちらにしても自分的にはあまり変わらない (3・男) / どうでもいい (3・男) / 大学っぽくない (3・男) / 友達関係に影響がでそうな気がする (3・男) / なし (4・男) / 必須の科目はやってほしい (5・男) / 多いほうがいいのか、少ないほうがいいのかは人それぞれだから (5・男)

3. 反対

時にはいっぱいいた方もいいと思う (2・男) / どれも少人数だと疲れる (3・男)

4 「習熟度別クラス編成」についてどう思いますか。

1. よい

同レベルの人間が集まることで、講師、生徒双方の学習効果が向上すると思われるから (1・男) / 自分のレベルに合った学習ができるから (1・男) / レベルによってクラスを編成することはさらにレベルをアップすることはできる (1・男) / それぞれに合った勉強が出来るため (1・男) / 同じようなレベルでやりやすい (1・男) / 自分の能力に合わせて勉強できるから (2・男) / 1と同じ (2・男) / 人によるレベル違いますから (3・女) / レベル別の指導が出来るため (3・女) / レベルがちょうどいいから (3・男) / 人それぞれの能力で分けているのでいいと思います (3・男) / 自分にあう授業レベルでなら難しい問題をあきらめてしまうこともないと思うので、習熟度別はとてもよいと思う (3・男) / 英語があまりできなくてこのクラスにはちょうどいいと思う (3・男) / ついていける (3・男) / 自分にあったレベルで授業ができることで、自分の勉強意欲が高まるから (3・男) / レベルごとに合った勉強ができるのでよいと思う (3・男) / 分かる人には分かるべんきょうをしてあげたほうがいい (4・男) / 自分のレベルにあっていていいと思った (4・男) / レベルが同じだから (4・男) / 同じレベルの人だったら、勉強にもよいと思います (5・女) / 自分にあったレベルの所でできるから、授業においていかれることもないから (5・男) / 実力がいっしょぐらいなのでよい (5・男) / やって良かったと思います (5・男) / いいと思う (5・男) / 同じ能力が近いから教えあえながらできる (5・男) / まったくわからない人やとても英語をりかいしている人で英語力にさがあるからよいと思う (5・男) / 自分の能力にあっていて勉強しやすい (5・男) / レベルに合った勉強ができるから (6)

2. まあよい

自分にあった授業が受けられる (1・女) / 上と一緒に (1・男) / しっかり勉強に取り組めることもある (1・男) / 無理なく授業を受けられるから (1・男) / 人によって差はあるんだからいいんじゃないか (1・男) / 個々のレベルによって勉強できるから (2・男) / レベルがちがいきすぎないですむから (2・男) / なんとなく (2・男) / 頭の良さがわかるから (2・男) / わかりやすい (2・男) / よいからよい (2・男) / 授業を受けてみて、自分にはどうしてもあわないと思えば、もっと自分のレベルにあうクラスに行くことも、必要だと思う (3・男) / その人のレベルに合ったクラスに編成した方が良かったから (3・男) / 同じレベルの人が集まっているから (3・男) / いいと思う (3・男) / 個人のレベルでいけるので難しくはないと思う (3・男) / レベルごとに合わせて授業できるのはいいと思う (3・男) / レベルのあった所でやった方がのびる (3・男) / レベルがあるから (3・男) / 確かに習熟度別のがレベルにあっているかも (3・男) / 自分に合っている (4・女) / 自分にあったクラスがいいから (4・男) / 頭の良い悪いで判断されるのはイヤだが仕方ない (4・男) / 普通だった (4・男) / それぞれに合ったレベルでやった方がみんなのびると思うから (5・男) / 自分のレベルがわかる (5・男) / きそからやってくれるから (6・男)

3. どちらでもない

できる人が下にいたり、できない人が上にいると、その人が大変だから。でもそれ以外の人にとってはいいと思う (1-男) / なんとなく (2) / 何となく (2-男) / 特になし (2-男) / 結局のところよくわからない (3-男) / どうでもいい (3-男) / まあちょうどいいと思う (3-男) / 習熟度別に合わせた授業をするのは良いと思うが、下のクラスの人が少しばかり馬鹿にされている気がする (3-男) / なし (4-男) / 一回のテストだとビミョウ (4-男) / どうも思わない (5-男)

4. あまりよくない

英語が苦手なのに高いレベルのクラスにぶつかってしまった (1-男) / あまり、そう言うのでは分けてほしくない (3-男)

5. 悪い *コメントなし

5 今年度はクラス間の移動を許可しましたが、それについてどう思いますか。

1. よい

自分のレベルは自分が一番把握していると思われるから (1-男) / 自分のレベルにあった場所から (1-男) / 自分のレベルを知りながら行きたいクラスに入ることができるから (1-男) / 思ったよりついていけない人とかがいるからいいと思う (1-男) / ついていけなかった場合、得るものがない (1-男) / その人が自分のレベルに合わせていけばいい (2-男) / 場合によっては変更できるのはいいと思う (2-男) / 何となく (2-男) / レベルがあってないクラスにいるのはつらいから (2-男) / 一回受けて失敗？した人のため (3-女) / 無理なくついてゆける (3-男) / 自分には内容が難しすぎる場合これはいいいと思う (3-男) / このクラスはあっていなかった (3-男) / テストが全部じゃないから (3-男) / レベルが合わない場合もあるので必要だと思う (3-男) / 行きたいクラスに行けるのは良いことだと思う (3-男) / 自分で考えられてよいと思う (4-男) / 自分のレベルにあわせられるから (4-男) / 非常にいいと思います (5-男) / 移動許可はイイと思う (5-男) / 自分の思ったクラスへいけるから (5-男) / 最初のテストでまぐれで点がとれてしまったら、授業についていけなくなるから (5-男) / 上にあがりたいたい人いるのでよいと思う (5-男) / 本人の希望をそんなふうにしたほうがいいです (5-男) / 自分の能力にあったクラスがいいと思う (5-男) / 行きたい人は行けばいい (5-男)

2. まあよい

きちんとした理由があれば悪いことではない (1-男) / レベルが合わないのなら、合うところでやった方がいいから (1-男) / 別にいいと思う (2-男) / 個々で勉強したいレベルがあるから (2-男) / 特になし (2-男) / 自分がいききたい所に行けるから良い (2-男) / 自分のレベルに合わせられるからよい (2-男) / 移動したいならそれでいいと思う (2-男) / その人のクラスに対するレベルのことで移動させてほしいという希望があれば、できるかぎり聞き入れることも、いいと思います (3-男) / 上に同じ (3-男) / 自分の行きたいクラスで勉強できればよいと思う (3-男) / いい方法だと思う (3-男) / ついていけないのなら仕方ないと思う (4-男) / 自分に合ったクラスを移動してさがせることができるからおもうから (5-男) / 自分のレベルをはあくできるから (5-男) / 難しいと思った時などに自分に合ったレベルに移動できるから (6)

3. どちらでもない

そのレベルに合った所にいけばいいと思う (1-女) / どーでもいい (1-男) / よくわからん (1-男) / 自分のレベルに

合っていることが大事だと思うので良いんじゃないかと (1・男) / なんとなく (2) / よくわからない (2・男) / 知らなかった (3・男) / どうでもいい (3・男) / してないのでわかりません (3・男) / 自分にあわないのなら移動してもいいと思う (4・男) / なし (4・男) / 自分には関係なかったため (4・男) / 人の好き勝手だから (4・男) / 別に移動がなくてもいいと思う (5・男) / どっちでもいい (5・男)

4. あまりよくない

友達といっしょにする可能性があるから (1・男) / 自分の好きな人がいるからという理由で動く人も少なからずいると思うから (3・男) / どんなものか分からないので移動できなかった。くわしく説明してほしい (3・男) / なかよしグループで固まっていまいばんきょうにならないじゃ (4・男)

5. 悪い *コメントなし

6 全クラスに「習熟度別クラス編成」を導入することについてどう思いますか。

1. 賛成

3と一緒に (1・男) / 学生全員のためになるものだと思う (1・男) / 上記の理由と同様 (1・男) / 4で述べた通り (1・男) / それでやりやすくなるのなら (1・男) / 1と同じ (2・男) / みんなわかりやすくてできるから (2・男) / 人はレベルによって違うから (2・男) / 4と同様 (3・女) / とってもやりやすいと思うから (3・男) / 自分のレベルに合った授業がうけられる (3・男) / その人の能力によって分けている編成については賛成です (3・男) / 自分のレベルにあってないとやる気がおきないから (3・男) / レベルに合ったクラスがある方が良くと思ったから (3・男) / 5と同じ (3・男) / 別にいいと思う (3・男) / 4と同じで個々のレベルに合ったやり方ができるのでいいかも (3・男) / よくなると思う (3・男) / 自分にあったレベルで勉強できるので (3・男) / レベルのあった所でやった方がのびる (3・男) / 自分にあったほうがいいと思う (4・男) / 頭の良い悪いで判断されるのがイヤだが学習するために良い環境だと思うのでいい (4・男) / わかりやすいと思う (4・男) / 上と同じ (4・男) / レベルが一緒の子とやれるので、わかりやすいと思う (5・男) / 大学の全体的に基礎がきっちりできてくると思う (5・男) / いいと思う (5・男) / 全クラスでやったほうがいいと思います (5・男) / クラス別で分かれていていいと思う (5・男) / 個々が伸びる (5・男) / 4とおなじ (5・男) / たんいをおとすことがなくなるから (5・男) / 集中できる (5・男) / 自分の能力にあわせてできるのでいい (5・男) / 導入した方がみんなレベルに合った勉強がしやすいと思う (6)

2. どちらともいえない

なし (1・男) / ある程度レベルを合わせた方が効率がよさそう (1・男) / 自分のペースでできるのでいいけど、自分に合っていないクラスだと大変だから (1・男) / なんとなく (2) / 正直どちらともいえない (2・男) / 何となく (2・男) / 分からないから (2・男) / 頭よい人と悪い人がいっしょにいることによって悪い人もレベルアップできると思う (2・男) / よくわからない (2・男) / 授業的には良いと思ったが… (3・男) / どうでもいい (3・男) / ほかのひとと差がでてしまうから (3・男) / どちらともいえない (3・男) / なし (4・男) / クラス編成の理由と同じ (4・男)

3. 反対

差別的なものを感じる (1・女) / みんな平等が1番 (2・男) / クラスにかたよりがでてしまいそう (3・男) / 4番と同様 (3・男)

7 「少人数制・習熟度別クラス編成」に関してご意見があればご記入下さい。

賛成です (1・女) / もっとレベルの高いクラスを作って欲しい。一ばん上でもあまりにも低すぎる (1・男) / もっと苦手な人にもわかりやすいような環境にしてほしい (1・男) / 特になし (1・男) / 特になし (2・男) / とくになし (2・男) / 特にありません (2・男) / とくになし (2・男) / なし (2・男) / 特にありません (3・女) / 今のままで変わらないほうがいいと思います (3・女) / 特にないです (3・男) / 1限は少しきびしい (3・男) / よいと思う (4・男) / 無い (4・男) / ない (4・男) / なし (4・男) / 特になし (4・男) / 集中しやすい。わかりやすい (4・男) / 自分の実力にあったクラスに行った事で、わからない基礎から教えてもらえてよかった (5・男) / 特になし (5・男) / ナシ (5・男) / 特になし (5・男)

V. おわりに

以上「情報リテラシー」「国語」「英語」における「少人数制・習熟度別クラス編成」の導入については、教員側、学生側双方から高い評価と支持を受けていることが明らかになった。

また、各教科における具体的な課題も明らかになってきており、来年度の完全実施にむけて、それぞれの教科におけるこれらの課題の解決に向けたより一層の取り組みが望まれる。来年度の完全実施に向け、関係各位のますますのご協力を賜ることを願いつつ稿を閉じる。